

平成 28 年度 事業 報告

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 井上育英会

I. 事業の状況

1. 奨学生の選考・奨学金の貸与

(1) 大学別・年次別 学生数・奨学金貸与額 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

大 学	採用	年次別学生数(人)						奨学金貸与額(円)		
		6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	計	月 額	留学対応	年間貸与総額
北 海 道 大 学	4		2	4	5	4	15	442,000	△300,000	5,004,000
東 北 大 学	3	1		2	4	2	9	264,000	600,000	3,768,000
東 京 大 学	6		1	3	3	6	13	425,000	155,000	5,255,000
東京工業大学	2			4	3		7	225,000		2,700,000
一 橋 大 学	1			3	1	1	5	175,000		2,100,000
名 古 屋 大 学				1	1		2	56,000	252,000	924,000
京 都 大 学	3				2	2	4	140,000		1,680,000
大 阪 大 学	3			1	1	3	5	170,000		2,040,000
九 州 大 学	2			2	1	2	5	148,000		1,776,000
合 計	24	1	3	20	21	20	65	2,045,000	707,000	25,247,000

(2) 奨学金貸与月額	自宅	自宅外
東京・近畿	30,000 円	35,000 円
その他の地域	28,000 円	30,000 円

2. 奨学生に対する勉学、進路等の指導・助言

(1) 月例会等

在京学生に対して、毎月第一水曜日奨学金支給時に学生委員を中心とするOBが夕食を共にし懇談と指導を行った。各支部でも毎月奨学金支給時に懇談会が行われ、いずれも奨学生の相談が相次ぎ進路等について適確なアドバイスを与えた。

また季節の例会として、初夏例会(6月17「中小企業・中堅企業の生産性向上に向けて」経済産業省中小企業庁事業環境部 佐伯徳彦氏)、秋季例会(11月18日「就活と終活を取材して～記者の目に映ること」読売新聞東京本社編集局 大廣悠子氏)、新年例会(1月20日)を開催。いずれも学生とOB会員ら数十人が集い、講演と懇談で啓発の実をあげた。支部においても、東海(7月)、近畿(12月)、北海道(2月)、東北(10月)などでそれぞれ行われた。

(2) 卒業祝賀行事

3月3日の祝賀前夜祭は、全国の卒業生と新奨学生と昨年同様それ以外の奨学生も参加、OB含め71人が老舗江知勝のすきやきを囲んで懇談。学生の自己紹介とOBの激励が続いた。

翌4日の祝賀会はホテルグランドパレスで行われ、役員や支部代表の先生方から卒業生らにはなむけの言葉が贈られた。

また同日、卒業生以外の全国の奨学生が参加し交流会が行われた。昼は、東京の学生が「チーム対抗 ミステリーラリー in TOKYO2017」を企画。東京観光を通じたゲームを楽しんだ。夜にはOBも加わり懇親会を行い、他支部の奨学生との交流を深めた。

卒業生を送る会は北海道・東北・九州など支部ごとにも行われた。

(3) 新奨学生歓迎行事・スキー合宿等

首都圏在住の新奨学生を歓迎するバス旅行が7月2・3の両日に行われた。今年も東海支部との合同開催とし、新奨学生と先輩の学生・院生・OBらが参加、松本市内歴史探訪と大河ドラマ館真田丸、戦没学徒画学生の無言館見学などを楽しんだ。北海道・東北の各支部でも歓迎会・一泊旅行等が行われた。

恒例のスキー合宿は平成29年1月7日から3日間、苗場スキー場で行われた。18人が参加、白銀の大自然の中で滑りを楽しみながら、心身を鍛えた。

(4) 会誌の発行等

会誌「新桜菱」第238号(H28.5) 第239号(H28.9) 第240号(H28.12) 第241号(H29.2)

3. 育英資金の募金

本年度は延べ155人の方から応募があり、醸金総額は2,388,000円であった。